

編集後記

■編集委員

委員長

藤田郁代

副委員長

立石雅子

今井智子

内田信也

宇野彰

勝木準

倉内紀子

倉知雅子

佐藤睦子

城間将江

鈴木恵子

関啓子

玉井ふみ

長谷川賢一

春原則子

深浦順一

藤原百合

水田秀子

矢守麻奈

今年は晩夏の季節が慌ただしく過ぎ、秋は短く冬の訪れが早そうです。本誌では、8月末に投稿規定・執筆要綱を改訂しましたので、巻末に掲載しています。今後、新しく作成される論文は新しい投稿規定・執筆要綱に従うことになります。今回の主な改訂は利益相反と投稿区分の2点です。

利益相反の行為は、当事者が複数いる場合に一方の利益となり、かつ他方の不利益となる行為を指します。本誌に投稿される論文の大多数は患者や健常者を対象としていますが、産学連携による研究では倫理的・学術的責任と同時に、資金・機材などを提供する企業・団体等への責任が発生し、時にそれらが相反することがあります。研究を推進するために資金や機材の提供を受けること自体には問題はありませんが、利益相反がある場合、それを自ら開示して研究の倫理性や公正性を確保することが重要です。利益相反が生じる可能性があるものとして、企業・団体からの報酬、研究費・助成金などの援助、株式の利益、寄付金や設備・物品の供与、特許権使用料などが挙げられます。本誌では研究活動の中立性および公正性を確保するため、投稿論文の末尾において利益相反について自己申告していただくことになりました。細則等の検討は今後、進めたいと考えています。なお人を対象とした医学系研究を実施される場合は厚生労働省と文部科学省による「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」(2014年12月22日告示)を必ずご確認ください。

投稿区分については、従来の“原著、症例報告、短報、その他”から、“原著、総説、症例報告、短報、レポート「現場最前線」”に拡大しました。すべての投稿区分の論文は査読を経て掲載されることになりますが、改訂により多様な研究が掲載されやすくなると思いますので、活発な投稿を期待しています。

今号には、第7回言語聴覚研究優秀論文賞を受賞された宮崎泰広氏の随想、音声知覚と視線および失構音の分類に関する原著論文2編、二次性水頭症例の展望記憶の改善に関する症例報告が掲載されています。このほか、短報とレポート「現場最前線」など貴重な研究報告が掲載されています。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第13巻 第4号)2016年12月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2016, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)